

豚熱への対応

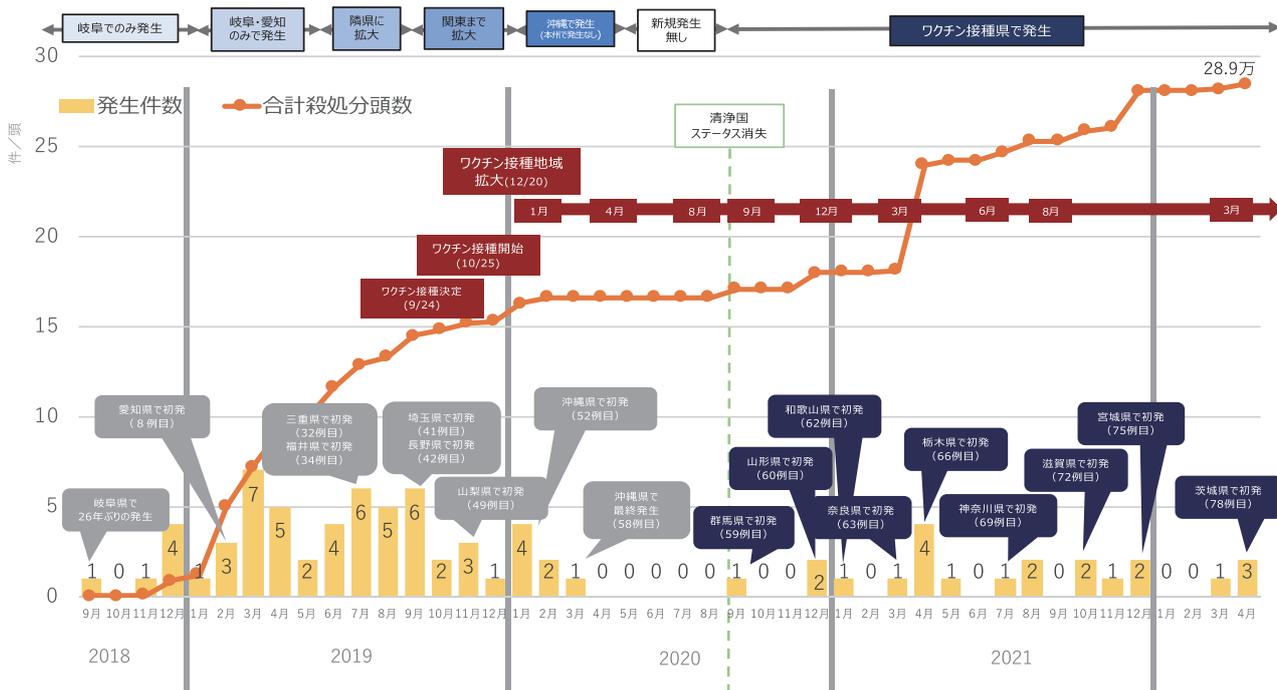
2018年9月、岐阜県の養豚農場において、我が国では26年ぶりとなる豚熱の発生が確認されました。野生イノシシにおける豚熱感染の拡大に伴い、飼養豚での発生も拡大したことから、2019年3月からは野生イノシシに対する経口ワクチン散布、2019年10月からは対象地域における飼養豚へのワクチン接種を開始しました。ワクチン接種の開始以降も農場での散発的な発生が確認されています。

飼養豚における発生状況

飼養豚では、2020年度末までに、岐阜県、愛知県、三重県、福井県、埼玉県、長野県、山梨県、沖縄県、群馬県、山形県、和歌山県、奈良県の計12県、63事例の飼養豚における発生が報告されていました。2021年度は、新たに栃木県、神奈川県、滋賀県、宮城県で発生があり、2021年度末までの発生は計16県、77事例となりました。

飼養豚への予防的ワクチン接種対象地域は、野生イノシシにおける感染状況や野生イノシシの生息状況等を踏まえ、専門家(牛豚等疾病小委員会)による議論を行なった上で決定されます。2021年度中には、新たに9県が飼養豚への予防的ワクチン接種推奨地域に指定され、北海道と九州地方を除く39都府県においてワクチン接種を実施しています(2021年度末時点)。なお、2021年度中の発生は全てワクチン接種地域内で起こりました。

特1-1図 2018年以降の豚熱発生の経緯



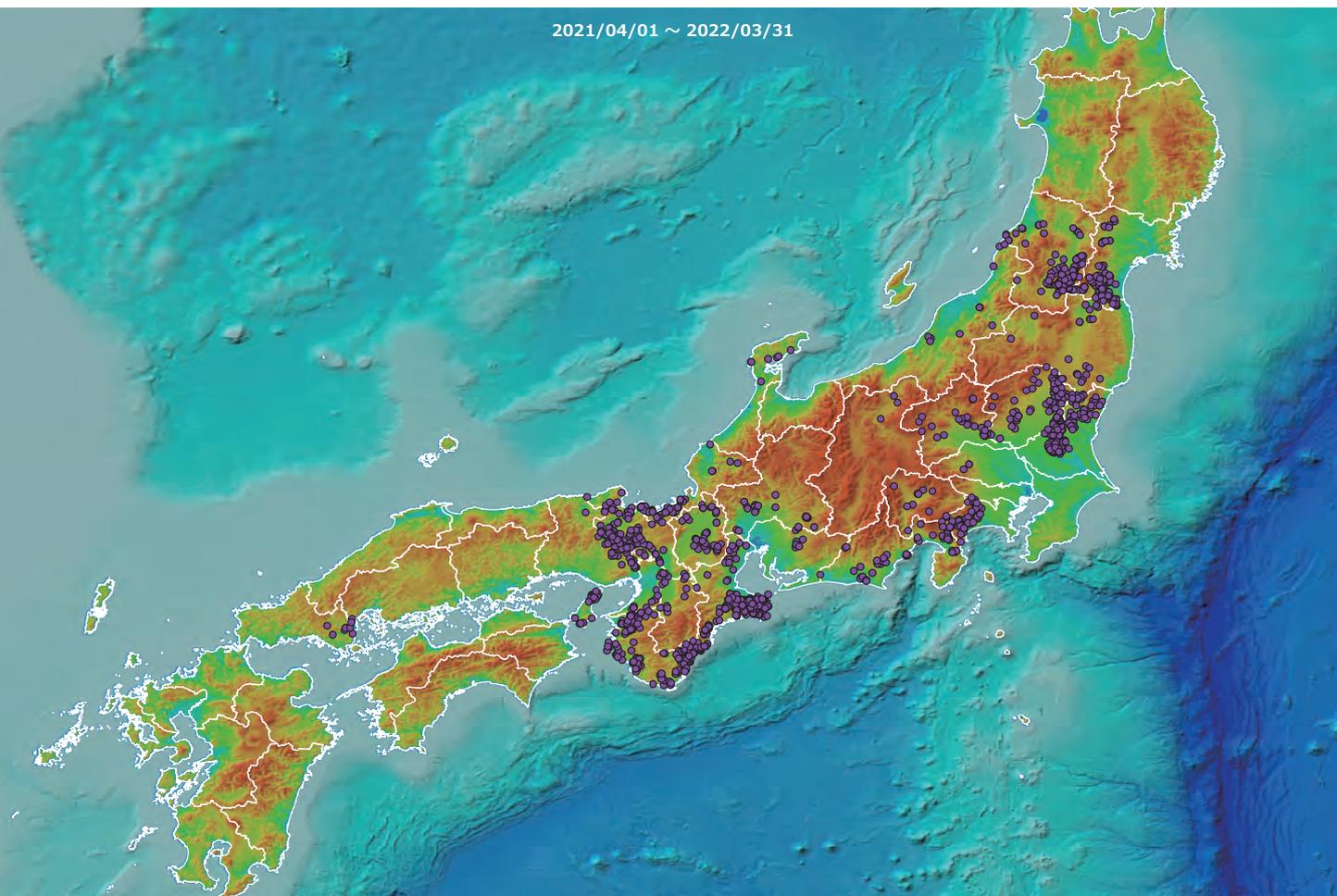
野生イノシシにおける感染状況

発生当初の2018年度には2県のみで確認されていた野生イノシシにおける感染は、2020年度までに24県で確認されていましたが、2021年度にはさらに3県で感染が認められ、2021年度末時点では27都府県で確認されています。

特に、2022年3月には、それまでの本州における野生イノシシ感染地域の最西端は兵庫県でしたが、西に約280kmの距離に位置

する山口県で感染が確認されました。遺伝子解析の結果、山口県内で陽性と確認された野生イノシシのウイルスは、兵庫県など比較的近い場所で見ついていた感染イノシシに由来するウイルスではなく、およそ500km離れた紀伊半島東部で見つかった感染イノシシに由来するウイルスと最も近縁であることが判明しており、豚熱ウイルスが何らかの人の活動を介して遠隔地に持ち込まれた可能性が懸念されています。

特1-2図 2021年度末時点での野生イノシシにおける豚熱陽性確認地点



背景地図：国土地理院 地理院タイル（色別標高図）
 海域部は海上保安庁海洋情報部の資料を使用して作成